自己点検・自己評価

《評価とその内容》

５:達成している　　４:ほぼ達成している　　３:どちらともいえない

２:取り組みを検討中　　１:改善が必要

１．教育理念・目的等

１	理念・目的・育成人材像は定められているか	4.1
２	育成人材像は各学科の関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	4.3
３	理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	4.4
４	学校の将来構想を抱いているか	4.0

〈現状と課題〉

「こころとからだが動く介護」の理念のもと、その理解は、実習を通して、実践に形づけられている。今後も、理念に基づき、社会や福祉に必要とされる人材を育成するため、福祉の教育に取り組まなければならない。

２．学校運営

５	法人の組織運営を適切に行っているか	3.9
６	学校運営のための組織を整備しているか	3.9
７	意思決定システムを整備しているか	3.1
８	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4.4

〈現状と課題〉

組織が整備され、情報システムを用いた業務の効率化が図られているが、ICT の活用に改善の余地がある。

各学科の担任、教員の連携、協働のもと、情報を共有し、学生の質や学習効果を高めようと努力している。

３．教育活動

９	理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4.4
１０	学科ごとに修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	4.3
１１	教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4.4
１２	シラバス（授業計画書）は学生が授業内容を理解しやすく、授業内容と一致しているか。	4.4
１３	授業内容や指導方法が学生レベルにあうよう工夫・改善しているか。	4.4
１４	未履修科目の原因分析を教員側と学生側とで実施し、対応策を講じているか。	4.4

１５	学生に修了認定のための評価基準と方法を公開しており、かつ、評価が公平性・妥当性が保たれているか。	4.4
１６	実習目標に沿った施設の選択及び学習環境・指導体制が整っているか	4.5
１７	実習指導者と教員の役割を明確にしているとともに、実習指導者と教員の協働体制を整えているか。	4.6
１８	実習において、学生が関係したインシデント等を把握・分析しているとともに、改善策を講じているか。	4.6
１９	成績評価・修了認定基準を明確化し、適正に運用しているか	4.8
２０	資格・免許取得の指導体制はあるか	4.8
２１	資格・要件を備えた教員を確保しているか	4.9
２２	教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか	4.4
２３	教職の組織体制を整備しているか	4.0

〈現状と課題〉

授業内容や指導方法については、学生の質によって伝え方を工夫しながら行い、個別指導等により補っている。実習施設の選択など学習指導が必要な学生の中にも習得差があるため、さらに個別指導や学習が必要となり、学習効果を上げるための工夫や対策を考えていくことが今後の課題である。

４．学生支援

２４	進学・就職指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4.0
２５	学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4.0
２６	退学率の低減が図られているか	4.0
２７	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	4.5
２８	保護者と適切に連携しているか	4.4
２９	卒業生への支援体制はあるか	3.8
３０	（日本語科）日本を理解するための支援が適切に行われているか	4.3
３１	（日本語科）入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか	4.5
３２	（日本語科）我が国の法令を遵守させる指導を行っているか	4.3

〈現状と課題〉

各学科の担任が中心となり、進学や就職に関する相談を受け、必要時に保護者と連絡を取りながら、協力体制を整え、学生を支えている。

留学生に対しては、通訳を配置し、適切に指導、支援している。

５．学習成果

３３	就職率の向上が図られているか	4.6
３４	資格・免許取得率の向上が図られているか	4.5
３５	卒業生の社会的評価を把握しているか	3.5

〈現状と課題〉

高い就職率や、資格取得に向けての体制が整備されている。

各領域の専門性を生かした学習を教員連携のもと、国家試験合格を目指し取り組んでいる。今後も学生の状況に合わせた学習指導の工夫が課題となる。

６．教育環境

３６	教育上の必要性に対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	3.1
３７	防災に対する組織体制を整備し、適切に運営しているか	3.9
３８	学内における安全管理体制を整備し、適切に適用しているか	3.9

〈現状と課題〉

法令通りの基準、運営をしている。教育上に必要と思われる設備、用具等は整っている。

教員・学生とも、物を大事に取り扱うことを意識しているが、設備、用具等の劣化は否めない。安全面の観点から、整備する箇所を一つひとつ見直していかなければならない。

７．学生募集活動

３９	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4.4
４０	学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか	4,4
４１	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4.1
４２	経費内容に対応し、学納金を算定しているか	4.1
４３	入学辞退者に対し授業料等について適切な取り扱いを行っているか	4.4

〈現状と課題〉

広報部が中心となり、全教職員が学生募集を適切に行っている。

広報活動として高校訪問を行ったり、進路ガイダンスに参加しているが、何の情報を相手側が求めているか、もっとしっかり把握する必要がある。

福祉教育に対する応募者が減少しているが、福祉人材を確保するために、福祉の魅力を伝えるべく、教職員一丸となって学生を集めていかなければならない。

８．財務

４４	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3.5
４５	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.6
４６	財務について会計監査が適正に行われているか	4.1
４７	財務情報公開の体制整備はできているか	4.1

〈現状と課題〉

適切に行われ、財政安定に努力している。

安定した財務基盤となるよう、より一層の学生募集に取り組まなければならない。

９．法令等の遵守

４８	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4.4
４９	個人情報に関し、その保護のための対策がとられている	4.5
５０	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に務めているか	4.1
５１	自己点検・自己評価結果を公開しているか	4.6
５２	関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか	4.5

〈現状と課題〉

法令、設置基準、個人情報を保護する対策については、運営、対策がしっかり取られ、関係省庁への報告も遅滞なく行われている。

１０．社会貢献

５３	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3.6
５４	学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	3.9

〈現状と課題〉

外部講習会を積極的に行い、学校のグランドを一般に貸出し、障害者の方に授業をしてもらう等の社会貢献を行っている。

ボランティア活動はコロナ禍も明け、5 類になったので、今後充実していけるよう学生に紹介し参加を促している。

学生のボランティア活動を奨励している在学中に貴重な経験を得る事は大切と考えている。

令和６年度　広島福祉専門学校
学校関係者評価報告書

１．学園建学の精神

学校法人中川学園は、『愛と信念』の校訓の下に、福祉教育を実践する教育機関である。

学生・生徒に対する教育方針は、『１．愛情、２．厳正、３．信頼』である。すなわち、教職員は惜しみない愛情をもって生徒に接し、正しいことは妥協せず厳しさをもって教え、それによって教職員と学生・生徒との間に信頼関係が芽生える教育を目標としている。

２．広島福祉専門学校の目標

中国四国地方では最も伝統のある職業教育専門校として、「愛と信念」の校訓の下、思いやりに満ちた福祉専門職を養成し、もって地域福祉に貢献することを目的とする。

３．学校自己点検・自己評価報告書について

評価は１～５点で、

５：適切、４：やや適切、３：どちらともいえない、２：やや不適切、１：不適切

学校自己点検・自己評価報告基準	学校自己点検・自己評価報告基準についての評価点の平均		
	自己評価の結果が適切か	改善に向けた取り組みが適切か	今後の改善方策が適切か
１．教育理念・目的等	3.0	3.0	3.0
２．学校運営	3.3	3.0	3.0
３．教育活動	4.3	4.0	4.0
４．学生支援	4.7	4.7	4.7
５．学習成果	4.0	3.7	3.0
６．教育環境	4.0	4.0	3.3
７．学生募集活動	2.3	3.0	2.7
８．財務	2.7	2.7	2.7
９．法令等の遵守	4.7	4.7	4.7
10．社会貢献	3.3	3.0	3.0

４．講評

教育活動、学生支援、学習成果、学生募集活動、法令遵守の項目で自己評価が高い。低めは学校運営、財務と社会貢献である。すなわち、多くの教職員は自らの業務については満足のいく結果であると考えている。しかし、実績では学生募集の成果を認めることができず、結果財務について評価があがっていない。その点が今年度も大きな問題である。

学校の力は学生の数である。どんなに良い授業できても、学生がいなければそれは全く価値がない。学生がいなければ学校は成り立たないので、学生募集では定員は必ず集めるということが大切である。その点から考えると、ここ数年と同様自己点検、自己評価は少なくとも成果をもとにはされていないと考えられる。自己点検と自己評価をより客観的に行うことが強く望まれる。学生募集の点では、定員に対する充足率を上げてこそ、その他についても客観的成果こそ評価の対象になることを認識する必要がある。

定員を充足していない状況で、改善に向けた取り組みが精神論になっている。教職員一人ひとりが意見を出し合い、具体的な案を出していくことが望まれる。

学園の建学の精神を根底に、教職員が一丸となって広島福祉専門学校の目的達成することを願う。

以上